第2回

菊池市民劇 つむぐ

時を超えて紡がれる菊池物語――

200人超の市民が参加

脚本、出演者、裏方のスタッフ。全て菊池市民による手作りの市民劇「つむぐ」が、1月29日に市文化会館大ホールで上演されました。劇には約100人の市民が出演。運営スタッフや裏方のボランティアを合わせると、総勢200人を超える市民が携わっています。当日は約800人が来場し会場は満席に。家族や知人の晴れ舞台を見に来る人も多く、にぎわいを見せました。

市民劇は2年ぶりの上演。菊池一族をテーマにした前回と違い、今回は泗水、七城、菊池、旭志の4地域の歴史をピックアップしました。子どもたちが男性とともにタイムトラベルしながら各場面を巡り、地域の歴史を訪ね旅に出る物語です。

1_冨田甚平さんを熱演 2_コレラと戦う決意を固める増田敬太郎さん 3_不思議なおじさんと子どもたちの出会い 4_歴史を知り尽くした旭志の老僧様 5_コレラに悩まされる村の人たち 6_子どもたちによるホタルの舞い 7_増田さんの殉職シーン 8_「袖ヶ浦の別れ」の一場面 9_湿田の調査をする甚平さんを見守る 10_多くの子ども鎧武者が出演した

4地区の歴史をたどる旅

泗水の題材は、コレラと戦った警察官の増田敬太郎さん。明治時代に佐賀県の入野村（現唐津市）へ配属され、命と引き換えにコレラから村を守りました。七城は冨田甚平さんが主役。湿田を排水する土地の改良に成功し、稲の生産を飛躍的に増やした話です。菊池は菊池一族。博多の息浜で、探題を倒すために援軍を待つ「袖ヶ浦の別れ」のシーンを再現。旭志の場面では老僧と乙姫が登場。洞窟内で子どもたちと菊池の歴史を語らいました。

これに序幕とエンディングを加え、劇の構成は計6幕。各地域とも稽古に励んだ甲斐あってか、息の合った芝居を披露。子どもたちが4地域を舞台に冒険を繰り広げるストーリーに、来場者たちは引き込まれていました。

市民劇に込められた思い

4地域から多くの人が参加した今回の市民劇。携わった人たちに劇にかける思いを聴きました。

世代を超えて愛される市民劇へ

当初は11月の開催を予定していました。熊本地震の影響で開催が危ぶまれたものの、多くの市民の皆さんの熱意のおかげで開催できました。今回のタイトルは「つむぐ」。地域や人をつないで一つにしたいとの思いが込められています。

まず、泗水、七城、菊池、旭志の4地区でそれぞれの住民が題材を選びました。それを基に、演出家の蜷川幸雄さんに師事した大場雅子さんが脚本を製作。4地区が一つにまとまる素晴らしい作品が出来上がりました。泗水の物語で取り上げた警察官の増田敬太郎さん、七城の主役だった冨田甚平さんは、菊池の他地域に住んでいると知らない人も多かったのではないでしょうか。市民劇が、菊池の各地域の歴史を知るきっかけにもなったはずです。

10年ほど前、姉妹都市である岩手県遠野市の市民劇「遠野物語ファンタジー」を見て、いつか菊池でもやりたい。菊池にもこのような文化が欲しいと思っていました。遠野の市民劇は、オーケストラの生演奏や、小学生から高校生までが出演する神楽などもあり、各世代がまんべんなく参加しています。世代間の交流をとおして、まちの歴史や文化を継承する機会になっているのです。

今回の菊池の市民劇は高校生や若者層の参加が少なかったので、次回以降に増えてくれれば、さらに充実したものになるでしょう。文教都市として、市民劇が醸成していくことを願っています。

菊池市民劇「蘇れ故郷のこころ」
制作実行委員会
隈部忠宗（くまべただむね）会長（荒巻）

1_ 本番の立ち位置で稽古に励む
2_ 演出の指導に熱が入る
3_ メイクさんのお化粧で変身
4_ こども鎧武者の着付け

観覧者インタビュー

中村てるみさん
一花（いちか）ちゃん
（道園）

本格的な演劇に感動

孫が出演したので本番を楽しみにしていました。出演者の皆さんの演技が上手でびっくり。セットや衣装も本格的で、笑いや涙ありの楽しい劇でした。

4つの昔話をうまくつないであり、それぞれの地域の偉人を知ることもできて良かったです。次回も楽しみにしています。

▲時代をタイムトラベルする姫井さんと子どもたち。絶妙な掛け合いで物語の案内役を立派に務めた

出演者インタビュー

姫井役
本藤潔（ほんどうきよし）さん（戸豊水）

場面の背景を調べて演技に入りました

大役の話をいただき、最初は出演を何度も断りました。しかし、旧4市町村をつむぐ歴史のストーリーに共感したので覚悟を決めました。姫井役は劇に出ずっぱりで、セリフも多い。家族に劇の練習相手をしてもらい、なんとか覚えることができました。

出演が決まった後、冨田甚平さんが発明した道具を見に行き、増田敬太郎さんの子孫とお話ししました。各場面の背景を知った上で劇に臨めたので、感情移入しながら演技ができたと思います。

今回は多くの子どもたちが参加したものの、若い親世代の出演が少なかったようです。次回以降、若者の参加が増えれば、劇だけでなく菊池全体がもっと盛り上がるのではないでしょうか。参加して本当に良かったです。時間と労力をかけた価値がありました。

アキ役
中尾美織（なかおみおり）さん
（泗水東小6年）

劇の終盤で「もっとやりたい。まだ終わりたくない」と思いました。自分にとって最高の時間でした。また市民劇に出たいです。

ナツ役
吉田和香（よしだのどか）さん
（七城小5年）

長い期間練習してきたので、終わったときは大きな達成感でした。セリフは多かったけれど、間違えずに言えたので良かったです。

ハル役
和田佳大（わだけいた）さん
（泗水中2年）

セリフが多く、出演時間も長いので体力を使いました。でも、最後に客席から大きな拍手をもらい参加して良かったと思いました。

フユ役
尾畠恋々（おばたここ）さん
（旭志小5年）

友達が練習相手として他の子の役をしてくれて、助かりました。参加者みんなで協力して劇を作り上げていくのが面白かったです。

4地域を一つの物語に

脚本を作るときに心がけたのは、地域の垣根を越えた一つの物語を作ることでした。各地域で演目は決まっていたので、一つの物語にまとめるのは難しかったです。

出演者が楽しめる劇になるようにも気を付けました。舞台に立つだけなら文化祭でもできます。みんなで協力し合い、楽しんで参加したいと思える劇こそ、市民劇なのだと思います。観客の皆さんにも楽しんでもらえたなら幸いです。菊池に市民劇の文化が根付けばうれしいです。

脚本・演出
大場雅子（おおばまさこ）さん
（横町）

裏方の頑張りに感謝

舞台全般のまとめ、照明や音声の管理、大道具の作成など、裏方全般の仕事を中心に携わりました。裏方の皆さんはボランティアにも関わらず、とてもよく頑張ってくれました。市民劇の事後アンケートは幸いにも好意的な声が多数。でも、我々はつくる側の人間として、良い話を疑うスタンスは持ち続けます。浮かれずに地に足をつけ、先を見据えていきます。人を集める市民劇ではなく、やりたい人が集まる市民劇が理想ですね。

舞台監督
八須賀俊恵（はちすかしゅんえい）さん
（横町）

人と地域をつむいだ市民劇

たくさんの市民の思いが詰まった市民劇は、大盛況で幕を降ろしました。カーテンコールでは拍手が鳴りやまず、来場者アンケートでは次回開催を熱望する声が多数寄せられました。4地域の歴史が一つの物語になり、大勢の人の心を動かしたようです。

脚本・演出を担当した大場さんはこう打ち明けます。「実を言うと、最初は小学生がタイムトラベルをする内容ではなく、4地区それぞれが単独の劇を演じる予定だったんです」。隈部会長も「当初は各地区の会場で開催する案まであります。でも、それだと地域や人をつなぐことはできなかった」と振り返ります。

「劇のつながりがないと、自分の地区だけ見て満足して帰ってしまう人もいるでしょう。物語一つの中に4地区がつながっていることに意味がありました」と八須賀さんも思いを語ります。市町村合併から12年、もっと地域と人をつなげ、菊池市を一つにしたい――。その思いが今回の成功につながりました。

市民の心を一つに

「他の学校の子と友達になれた」「地域を超えて交流の輪が広がった」「隣の地域にはこんなにすごい人がいたのかとうれしくなった。菊池を誇りに思う」と、出演者は口々に話していました。市民劇をきっかけに新たな交流が生まれ、郷土愛も深まったようです。観客も「皆さんが協力し、一丸となっているのが伝わってきた」「感動して涙が出た。みんなの心が一つになれる良い企画。ぜひ続けてほしい」と話し、人の絆の素晴らしさを感じ取っていました。

たくさんの反響を受け、隈部会長も手応えをつかんでいます。「『次はぜひ出演したい』という声もたくさんありました。この思いを絶やさず、さらに菊池が一つになれるように続けていきたい」

地域の宝を住民が掘り起こし、魅力に変えて、共有し、継承する――。市民劇には、まちづくりの要素がたくさん詰まっています。菊池に根付き、幅広い世代で愛される市民劇になったとき、さらに大きなまちづくりの原動力となっていくでしょう。

菊池

各地域への愛着が深まる良い取り組み

菊池武時役　**山内理至**（やまうちまさし）さん（立石）

狂言の舞台に40年ほど立っているので、発声や動きが狂言にならないよう気を付けました。市民劇は菊池全体でまとまりながらも各地域への愛着も深まるので、素晴らしい取り組みだったと思います。市民劇を通して多くの人たちと交流できました。

▶狂言の舞台経験を生かし役に臨む

七城

先人の功績を伝えることができた

冨田甚平（成年）役　**栃原賢一**（とちはらけんいち）さん（加恵）

自分も農業で米を作っているので、ぴったりの役柄。努力した先人の功績を、自分の演技で市民に伝えることができたのは光栄でした。市民劇をとおして交流が増えました。街で「甚平さん」と声をかけられることもあり、反響の大きさに驚いています。

▶甚平さんになりきり迫真の立ち回り

旭志

菊池が一つになれるきっかけづくりに

乙姫役　**中村巴**（なかむらともえ）さん（高柳）

今回の市民劇は4地域の物語が一つの劇にまとまり、合併後の菊池が一つになれるきっかけになったのではないでしょうか。出演することで新しい出会いがあり、つながりもできました。厳しさと温かさを兼ね備えた演技指導にも感謝です。

▶日舞の心得で落ち着いた演技を披露

泗水

感謝の思いと協力することの大切さ

増田敬太郎役　**中尾秀人**（なかおひでと）さん（福本二）

重要な役を演じることができ誇りに思います。支えてくれた裏方さんには心から感謝しています。合併後の菊池には、地域によってはわだかまりが残っています。市民劇のように各地区が一緒に協力することで課題を乗り越えられたらいいですね。

▶郷土の偉人になりきって熱演